

モノクローナル抗体 — 作製から応用 —

近年、抗体の使用目的は多様化している。KTSでは、一般的な抗体作製方法だけでなく、遺伝子改変マウスや免疫不全マウスを用いた抗体作製方法により、よりお客様のご要望に沿った抗体を取得することができる。

モノクローナル/ポリクローナル抗体の作製

マウスを用いたモノクローナル抗体の作製を受託いたします

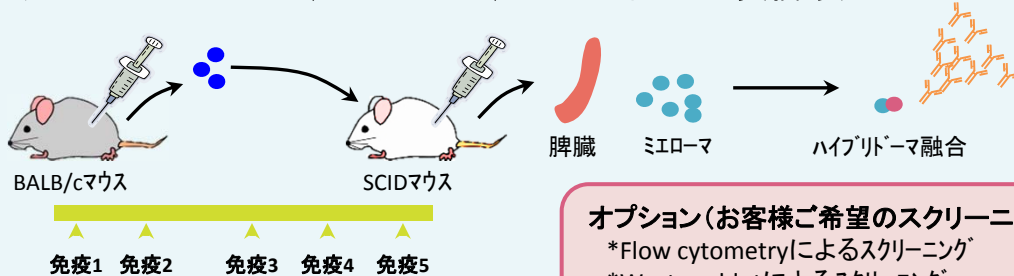
ステップ1(マウスへの免疫)

提供抗原 → マウスへの免疫 (2~3匹) → 採血および血中抗体価の確認

ステップ2(ハイブリドーマの融合・クローン化)

ハイブリドーマ融合 → 1次スクリーニング (抗原固相化ELISA) → 単クローン化

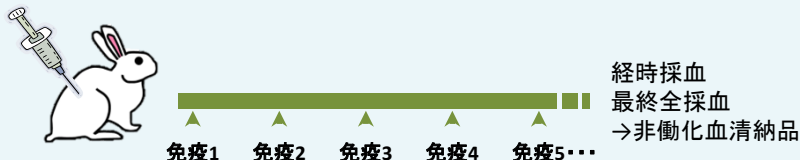
- 正常マウス(ex. BALB/c, C57BL)またはラット(ex. SD)への免疫
一般的な免疫方法
- 遺伝子改変マウスへの免疫
マウス自己抗原など特殊な抗原に対する抗体の場合
*遺伝子改変マウスの作製は行っておりません。
遺伝子改変マウスはブリーダーからの購入、あるいはお客様ご提供のマウスを使用します。
- 免疫不全マウス(SCID)を用いた免疫
一般的な方法で抗体取得が難しい抗原に好適
ウイルスエンベロップ、サイトカイン、ペプチドなどでの実績あり



オプション(お客様ご希望のスクリーニング等)

- *Flow cytometryによるスクリーニング
- *Western blotによるスクリーニング
- *ハイブリドーマの無血清培養馴化

ウサギを用いたポリクローナル抗体の作製を受託いたします



オプション

- *最終血清からの抗体精製 (protein A精製、アフィニティー精製)

抗体を使った実験系の構築

- お客様保有ハイブリドーマからの抗体精製
- 抗体標識 (HRP, biotin, etc.)
- 抗体可変領域の塩基配列決定
- ELISA系の構築

その他抗体関連試験についてご相談に応じます。